

291
199

和歌山縣
立古座高
等學校
圖書館
印

古座漁業誌

氏寄贈

2
10

中根武夫 氏寄贈

緒書

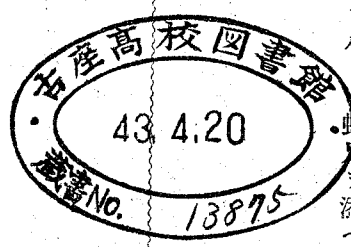
- 古座漁業誌 目次
- 一、古座浦漁業ノ創始
 - 二、古ノ漁業ト諸手船
 - 三、熊野ノ水師
 - 四、漁村ノ統制
 - 五、那智勢力ノ減退
 - 六、古座浦ノ捕鯨
 - 七、古座浦ト檜野浦
 - 八、承應四年ノ定書
 - 九、西畑平三郎ノ盡力
 - 十、黒山ノ植林
 - 十一、慶應元年ノ爭議
 - 十二、網代山林伐木ノ詭狀
 - 十三、流木ノ取扱
 - 十四、明治八年ノ判決
 - 十五、山地料ノ代償
 - 十六、漁場争訟
 - 十七、山地料ノ訴訟
 - 十八、立木評價ノ私曲
 - 十九、漁場ノ交渉
 - 二十、漁業法ノ實施
 - 廿一、漁業組合ト共同販賣
 - 廿二、漁權ノ回收
 - 廿三、組合享有ノ漁業權
 - 廿四、漁撈ト製造
 - 廿五、漁業税

頁	二	全	二	十	五	四	八	五	三	全	二
欄	下	全	下	下	上	下	上	上	上	全	下
行	十六	十五	六	六	三	七	十六	十八	三	八	六

正誤表

誤
手船
釣ラセ
紀制本紀註
右業
慶應
漁業
請負
域ハ
魚見
滿期
一箇

正
諸手船
釣ラセ
右等
慶應
漁業法
請負
域ヲ
魚見
滿期
一箇



中根七郎 謹識

中根七郎 稿

之ヲ明ニセサレト
ハ鳥獸ヲ獵シ、海
ノ浦魚介ノ類ニ豊
ハ、是レ即チ古座

浦ニ於ケル漁業ノ創始ナリト斷スルヲ得ヘシ、紀伊續
風土記ニ村ノ名ヲ解シテ曰ク
村ノ西ニ神ノ川村アリ古座疑フラクハ神座ノ轉ニテ
コレモ又重山瀧姫神ニヨリシ名ナラン

291
199

古座町ノ漁業ヲ叙スルハ、古座ト津荷トハ其來歴同シカラサルアリ、併セテ述フルヲ得ス、又古座ニ漁業組合
合アリ、辨天前漁業共同ノ組合アリ、各其系統ヲ異ニスルヲ以テ各別ニ記スル
漁業ヲ主トシ古今ノ大概ヲ擧ケ、次テ徐ニ他ノ事項ニ及ハントス、序次ノ拙、
其跡ノ誤マレト、蛇足ヲ添ヘ軌道ヲ逸シタル如キハ幾重ニモ故老先覺ノ痛斧

中根武夫 氏寄贈

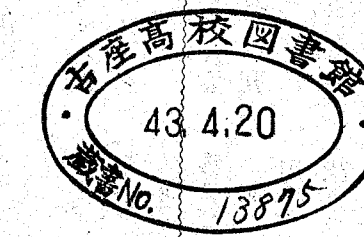
緒 書

古座町ノ漁業ヲ叙スルニ、古座ト津荷トハ其來歴同シカラサルアリ、併セテ述フルヲ得ス、又古座ニ漁業組合アリ、漁民組合アリ、魚商ノ組合アリ、辨天前漁業共同ノ組合アリ、各其系統ヲ異ニスルヲ以テ各別ニ記スルヲ便トス、故ニ本書先ツ古座ノ漁業ヲ主トシ古今ノ大概ヲ擧ゲ、次テ徐ニ他ノ事項ニ及ハントス、序次ノ拙、行文ノ劣、及其事ノ悉サル、ト其跡ノ誤マレト、此是ヲ添ヘ軌道ヲ逸シタル如キハ幾重ニモ故老先覺ノ痛斧ヲ冀フト云爾

昭和九年一月十一日

中根 七郎 謹識

古座 漁業 誌



中根 七郎 稿

一 古座浦漁業ノ創始
古座浦ノ漁業ハ何時頃ノ創始ナルヤ之ヲ明ニセサレトモ、原始狩獵ノ時代、山野ニ在ル者ハ鳥獸ヲ獵シ、海濱ニ在ル者ハ魚介ヲ捕フ、太古古座ノ浦魚介ノ類ニ豊ナルヲ以テ、人來リテ茲ニ聚落ヲ爲ス、是レ即チ古座浦ニ於ケル漁業ノ創始ナリト斷スルヲ得ヘシ、紀伊續風土記ニ村ノ名ヲ解シテ曰ク
村ノ西ニ神ノ川村アリ古座疑フラクハ神座ノ轉ニテコレモ又重山瀧姫神ニヨリシ名ナラン

29/199

古座 漁業 誌

目 次

- 一、古座浦漁業ノ創始
- 二、古ノ漁業ト諸手船
- 三、熊野ノ水師
- 四、漁村ノ統制
- 五、那智勢力ノ減退
- 六、古座浦ノ捕鯨
- 七、古座浦ト樫野浦
- 八、承應四年ノ定書
- 九、西畑平三郎ノ盡力
- 十、黒山ノ植林
- 十一、慶應元年ノ爭議
- 十二、網代山林伐木ノ詭狀
- 十三、流木ノ取扱
- 十四、明治八年ノ判決
- 十五、山地料ノ代償
- 十六、漁場爭訟
- 十七、山地料ノ訴訟
- 十八、立木評價ノ私曲
- 十九、漁場ノ交渉
- 二十、漁業法ノ實施
- 廿一、漁業組合ト共同販賣
- 廿二、漁權ノ回收
- 廿三、組合享有ノ漁業權
- 廿四、漁撈ト製造
- 廿五、漁業稅

トアリ、神座ハ神ノ坐マス處ナレハ、此地神代ニ既ニ
神人ノ居住アリタルナリ、又言語學者ノ研究ニ、クエ
、クシ、ハ蝦夷人ノ他稱ニシテ、彼自ラモ此等ト同音
若クハ多少相似タル音語ヲ以テ自稱トセシコトヲ知ル
ニ難カラスト稱シ、古座地方ニ串本、鬮野川、伊串、
楠アリト證シ、東牟婁郡誌ニ之ヲ引用シテ、

或ル研究家ノ考定ニ、古座モクズヨリ來リシモノ佐
部ハ「アイヌ」語ノ「サバ」主長ナルヘク、又「ク
シ」若クハ「クズ」ナル地名ノ近傍ニ「ツケ」若クハ
「ツガ」ノ音ヲ有スル地名ノ接近スルコトハ、注意
スヘキコトニテ鬮野川、串本ニ津荷アリ、狗子ノ川
ニ接近シテ高津氣アリ云々

ト例證セリ、即古座ヲ「アイヌ」語ノ地名トスレハ、
此地方先住民ノ地名ニシテ、其頃既ニ住民ノ有リシコ
トヲ證スルニ足ル、左レハ其時代ハ神代若クハ其以前
ナルヲ知ル、是ニ由リ之ヲ觀スレハ古座浦ノ漁業ハ其
始メヤ古シ

上古ニ於ケル此地方ノ状態ヲ考フルニ、熊野年代記文
徳天皇仁壽三年ノ條ニ、「熊野大島ニ人民屋ヲ建ル」ト
ノ記事アリ、仁壽三年ハ皇國ノ紀元千五百十三年ニシ

シタルハ諸手船ノ遺風ナリ云々、
又東牟婁郡誌上巻海賊起因ノ條ニ、
熊野ハ熊野諸手船ノ名、紀伊本紀註ノ神代卷ニ顯ハ
レタレハ、古ヨリ船舶操縦海上往來ノ便アリタルモ
ノナリ云々

紀伊續風土記牟婁郡新宮部上、祭式ノ條ニ
今出雲國三穗神社ノ社壇ノ下ニ小サキ船ヲ納ム、是
ヲ上世ノ諸手船ノ雛形ト云ヒ傳フ、其形大抵左右ノ
手ヲ小指ト無名指ヲ合セタルカ如クニテ、底ノ平板
ナク、尖リテ今イフ鯨船ナトノサマナリトイヘリ、
是レ水ヲ切ル事尖キ船ナレハ、鳥ニモ譬ヘテ天鳩船
トモ云ヒ、形ヲ以テ諸手船トモイヒ、其製スル地名
ヲ以テ熊野船トモイヘルナルヘシ、云々

古座浦ノ鯨船ハ勿論、其他ノ漁船モ所謂諸手船ノ遺製
ノ殘レルモノナルヘシ
此ノ漁船モ時代ノ進歩ニ伴ヒ大型ノモノ出來、其製作
モ改良セラレ、更ニ發動機船ノ如キ快速航走スル船モ
使用セラル、コト、ナル、而シテ發動機船ノ使用ハ大
體大正三年頃ヨリナリ

三 熊野ノ水師

テ、今昭和九年ヨリ數フレハ千八十一年ノ昔ニ當ル、
是レ大島村ノ大島ニ人家ノ建チタル始メナリ、去レハ
當時同村ノ須江、檜野ニハ未タ人家アラサリシモノナ
ルヘク、又古座浦附近村落ノ人口モ未タ多カラサリシ
ハ勿論ナルヘシ

二 古ノ漁業ト手船

古事記ノ大國主命ノ國讓ノ條ニ「拷繩ノ千尋繩打延ヘ
鉤ラセル海士ガ云々」ノ記事アリ鉤ヲ用ヒタルナリ、
又同書海幸山幸ノ條ニ、火遠理命其兄火照命ト漁獵ノ
具ヲ交換シテ、海幸ヲ以テ魚ヲ釣リ鉤ヲ失ヒタル神話
ヲ記ス、是亦鉤ヲ用井タルナリ、即漁業ノ初メハ鉤ヲ
用ヒ、後筥、網等モ使用スルコト、ナリ、何レモ漸次
改良ヲ加ヘテ、現今ノ如ク進歩シタル漁具ヲ用フルニ
至レルハ明ナリ

漁船ニ付テハ熊野ニ古キ歴史ヲ有ス、明治四十一年ノ
頃、新宮ノ中學校教諭ニテ熊野史ニ精通シタル小野芳
彦氏ノ語ニ、
一昨年廣島ニ往キ重田先生ニ面晤ス、先生曰ク出雲
ノ熊野ニ熊野諸手船ノ雛形アリ、紀伊熊野ノ諸手船
ノ製作方法ハ如何、熊野ノ漁船ニ種々ナル彩色ヲ施

年ヲ經ルニ從ヒテ漁業進歩シ、漁村發展シ、人口其數殖
ヘ、漁獲其高ヲ増シ、其活動ノ區域モ從テ擴大セラル
其間社會ニ幾多ノ變遷アリ、中央ノ權力ニ盛衰、消長
アリ、其權力ノ衰退シテ地方ニ及ホスコト能ハサルニ
至ルヤ、地方ニ侵略者生シ、自衛ノ必要起キ、屈強ナ
ル、漁夫ハ漁業ノ間弓矢ヲ執リ、劍戟ヲ持シ、武事ヲ
習フテ争鬪ニ備フルコト、ナル、平野ヲ驅馳スルモノ
ハ武士トナリ、武將トナリ海上ニ活躍スルモノハ水兵
トナリ提督トナル、斯クテ所謂熊野水師ノ形成リタル
ナルヘシ、
東牟婁郡誌ニ

海賊ノ横行ハ清和天皇ノ比ヨリ益々盛ニナリ、遂ニ
藤原純友ノ反ニ至リテ極マル、其軍トシテ蔓延シタ
ルハ山陽道ノ沿海、南海道ノ全部ト和泉攝津トニ限
ラル、純友亡ヒテ後ハ、海賊ハ大ニ衰ヘタレトモ未
タ絶滅ニ歸スルニ至ラス、鎌倉幕府起リテ政令ヨク
行ハル、ニ至リ、海賊ハ一旦其跡ヲ絶ツニ至リシカ
、南北朝時代ニ至リテ復興シテ、海上ヲ横行シ、南
朝北朝共ニ各之ヲ味方トシテ利用セントシタルハ、
古文書ノ證スル所ナリ云々

又中村文學士ノ説ナリト云フニ

義經ハ熊野ノ海軍ヲ懷柔スルニ全力ヲ傾ケタルニ似
タリ、當時ニ在リテハ熊野別當湛増ノ軍ハ、恐ルヘ
キ海上ノ一勢力ナリキ

更ニ又志賀重昂氏ノ言ニ

源平ノ後、平氏ハ瀬戸内海ニ據リ、四國中國ノ海賊
衆ニ依リテ西日本ノ海上權ヲ扣制シ、源氏ハ關東平
野ニ人ト爲リテ、陸戰ニ長スル者ヨリ成リ、一ノ海
軍ナク、流石ニ奇戰ノ源九郎モ躊躇スル所アルヤ、
湛増法師ハ多年風濤ト戰ヒテ鍛練セシ海賊船ヲ率ヒ
テ源氏ヲ助ケタルヨリ、義經是ニ於テカ進前シ、遂
ニ平氏ノ海上權ヲ掃蕩シテ之ヲ亡シ、ナリ、爾來熊
野浦ノ海賊船ハ、最モ一世ニ畏視セラル云々

トアリ、當時古座浦ノ漁戶ノ勇士等、義經ヲ援ケテ戰
功ヲ現ハシ意氣揚々トシテ凱歌ヲ奏シテ歸郷シタル壯
快ナル事蹟ハ今尙古座川河内神社ノ御祭典ニ見ルコト
ヲ得ヘシ

四 漁村ノ統制

熊野東岸ノ沿海中漁村ノ有力ナルモノヲ舉クレハ、三
輪崎浦アリ、勝浦アリ、太地浦アリ古座浦アリ、古座

等ノ舊記ニ見ユ、左レハ高川原氏モ那智山ニ關係アリ
タルコトハ推知スルニ難カラス
以上ニテ那智山ノ勢力ノ潮岬辺ニ及ヒタルコトヲ知ル
ヘシ

五 那智勢力ノ減退

那智山ノ勢力漸ク弛ヒ、其統制昔日ノ如クナラサルヤ、
太地浦ハ太地ノ豪族和田氏ニ依リテ那智山ヨリ離レテ
其勢力外ニ立チ、高川原氏ハ高川原村、古座浦ニ其威
勢ヲ張ルニ及ヒテ古座樫野等ヲ率ヒテ那智山ノ統制ヨ
リ脱スルニ至ル、慶長五年關ヶ原ノ役高川原氏ハ、石
田三成ニ與ミシタル爲ニ所領ヲ失ヒタルモ、幾千モナ
ク紀伊國主淺野幸長ニ仕ヘテ舊領ニ住シ、元和五年淺
野氏藝州ニ移封セラレ、ヤ、又從フテ之ニ赴ク、斯ク
テ古座浦、高川原村、樫野浦ハ直接ノ統制方ヲ失ヒ結
合ノ力ヲ弛メタルコト、ナル

高川原村其地海濱ニ面セサルニ、明治八年和歌山縣令
ノ判決ヲ受クル迄ノ間、久シク漁業ノ權利ヲ領有シタ
ルハ至ク右業ノ因縁ニ基ケル也、故老ノ言ニ高川原村
ノ中央古座川傍ノ地(今、大井氏ノアル邊)ニザラ場ト
稱スル所アリ、又古座浦ノ川岸(今小島氏ノ裏ノ邊)

ノ對岸ニ樫野浦アリ、而シテ三輪崎浦ハ新宮別當ノ統
制ニ屬シ、勝浦以西ハ那智山ノ統制ニ屬シタリ、彼ノ
那智山ノ社家ニ潮崎姓ノ多キハ、以テ潮岬ニ其勢力ノ
及ヘルヲ視フニ足ル、紀伊續風土記ニ依リ、那智山ノ
社家ノ潮崎姓ヲ舉クレハ、潮崎尊勝院、潮崎實藏院、
潮崎明樂院、潮崎寶春院、潮崎圓海院、潮崎寶壽院、
潮崎寶泉院、潮崎寶光院、塩崎龍壽院、塩崎寶教院、
塩崎覺壽院、潮御崎神主塩崎式部等ノ十二ヲ數ヘ、殊
ニ尊勝院ノ庭内ニ靜ノ窟ヲ祀ル、靜ノ窟ハ潮岬ニ在ル
少彦名命ノ神蹟ニシテ其因縁ノ深キコト知ルヘキナ
リ

西向村ノ小山氏ハ關東ノ豪族ニシテ元弘ノ頃鎌倉ノ命
ヲ受ケテ熊野沿海ノ警戒ニ任シタル者ナレバ、紀伊續
風土記ノ説ニ依レハ那智山ノ古文書ニ見ルニ小山氏ハ
那智山ノ社家ナリシト思ハル、旨ノ記述アリ

高川原村ニ一時居ヲ構ヘ、潮崎莊ヲ領シタリト云池大
納言平頼盛ノ孫保業ノ嫡子ハ、那智山廓ノ坊ノ養子ト
ナリタルコトハ、同續風土記ニ見ユ

又古座浦ノ領主タリシ高川原氏ハ、其先平維盛ニ出テ、
維盛ハ那智ノ隣莊色川ニ住シタルコトハ、南紀古士傳

ニモ同名稱ノ地アリ、古座浦ニ漁獲アリタルトキハ此
處ニ高ク竿頭ニ『ザル』ヲ掲ケレハ、高川原村モ之ニ
應シテ竿頭高ク掲ケタリト云

六 古座浦ノ捕鯨

太地浦ノ和田氏ハ古來海上ニ威武ヲ震ヒタル漁戶ノ勢
力ヲ轉用シテ捕鯨ノ事業ヲ始メタルハ、實ニ慶長十一
年豊臣氏ノ末期ニ屬ス、爾來古座浦ノ漁民モ亦之ニ參
加シタルモノニ非サト考ヘラレ

慶長十一年ヲ距ル約五十年、萬治年間ニ至リ紀伊國ノ
薄主徳川氏ハ太地浦ノ故智ニ倣ヒ、古座浦ニ於ケル漁
民ノ力ヲ用キテ捕鯨事業ヲ創始ス、古座浦ハ太地浦ノ
簡人經營ナルニ異ナリ、實ニ大藩ノ經營ニ屬シタル也、
斯クテ久シク天下ニ其勇名ヲ轟カシタル熊野海賊ナル
水師ノ威力ハ、壯快ナル捕鯨事業ニ轉化シ去ル、當時
藩祖ハ捕鯨船ヲ田邊灣頭ニ集メ、軍事訓練ヲ行ヒテ幕
府ノ忌諱ニ觸レタルコトハ南紀徳川史ニ見ヘタリ

七 古座浦ト樫野浦

古座浦ノ捕鯨ハ別ニ畧述シタルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス
元和五年高川原氏藝州ニ移リテヨリ、古座浦、樫野浦、
高川原村ノ漁業ハ其統制者ヲ失ヒ、團結ノ力ヲ弱クセ

リ、然レトモ永年ノ慣習ヲ以テ樫野浦ノ漁場ハ、三村ノ漁場トシテ之ニ稼キ、古座浦専ラ其牛耳ヲ執リタルモ、團結力ノ陵夷ハ永ク舊慣ヲ保持スルニ難ク、元和五年ヲ距ル三十六年承應四年ニ至リ、終ニ古座浦ト樫野浦トノ間ニ、忌ムヘキ漁場争議ヲ見ルニ至レリ

八 承應四年ノ定書

承應四年樫野浦ヨリ漁場並ニ魚付林ノ件ニ付異議ノ申出アリ、之ヲ本藩ニ訴ヘテ其ノ裁決ヲ仰カムトシ、既ニ出訴ノ用意ヲ調ヘタリ、其要求スル所何レニ在リシヤヲ明ニセサレモ、漁權ノ歩合ヲ定メムト欲シタルカ如シ、從來平和ニ漁業ヲ營ミタルモノ黑白ヲ藩廷ニ争フハ甚不可ナリト爲シ、西向村ノ羽左エ門、五左エ門大島浦ノ作左エ門ノ三氏進ミテ居中調停ノ任ニ當リ、折衝ノ末、古座浦二分、樫野浦一分トノコトニ示談ヲ調ヘ、定書ヲ作り之ヲ取替ハセタリト見ユルモ、其文書既ニ散逸シテ見當ラス、然レトモ此定書ニ基キ、古座浦ヨリ高川原村ニ交付シタル、書渡シ證書ノ本紙幸ニ保存セラレタリ、其文書ニ曰ク

書渡申證文ノ事

一先規ヨリ古座浦ト高川原村ト持合ノ網代山林ニ付

八郎左エ門 殿

同 清 兵 殿

九 西畑平三郎ノ盡力

承應ノ後古座浦對樫野浦ニ漁業上ニ付紛議ヲ生シ、樫野浦ニハ上司ニ對シ盛ニ運動ヲ試ミタル結果、古座浦ヲ非常ニ不利益ナル地位ニ陥リタリ、時ニ古座浦ニ西畑平三郎氏アリ、起テ其衝ニ當リ自ラ周參見ノ代官所ニ出テ、事理ヲ悉シテ辨疏シタル爲、遂ニ事件ヲ回轉シ權益ヲ保護シ得タリ、郷人大ニ愁眉ヲ開キ、其功ヲ德トス、當時平三郎氏懷中ヨリ『白雪や麥の二葉のうつくしさ』ト書シタル紙片ヲ出シ代官ニ示シタルニ、代官之ヲ手ニシ微吟シテ筆ヲ執リ『間をくゞるみそさゞるかな』ノ句ヲ添ヘタリトハ、今尙故老ノ話柄ニ傳フル所ナリ、平三郎氏野牛ト号ス、學識アリ、玉川玄龍先生ニ學ヒテ博聞強記郷黨ニ推重セラル、此事其年代ヲ明ニセサレトモ、平三郎氏ハ安永二年ニ生レ、文政五六年ノ頃失明シタリ、去レハ文化年代ト考ヘラル

慶應元年ノ爲取替書中ニ、文化五年ニ黒山（樫野ノ網代山ナリ）ノ風倒木賣却ノ件ニ付争訴アリ、代官ニ繫

今度樫野浦ヨリ出入ヲ申カケ樫野浦ヨリ御裏判ヲ取目安ツキ申候處ニ兩方共和歌山ニ罷上リ申候ヲ西向村羽左エ門殿同所五左エ門殿大島村作左エ門殿兩三人トシテ三ヶ一樫野浦分、三ヶ貳ハ古座浦分ニ御殿被成下相濟申候古座三ヶ貳ノ内三ヶ一ハ高川原如前世之持分ニテ御座候右之通少カ相違無御座候爲後日證書仍如件 承應四年末ノ三月十日

古座浦庄屋

山 本 六 太 夫

古座浦年寄

淺里 加右エ門

同 谷 市 郎 右 門

同 淺里 七 郎 兵 衛

同 同 八 太 夫

同 同 與 三 右 門

同 舟 持 中

高川原村庄屋

久 左 門 殿

同 年 寄

争中ナル旨ノ記載アリ、平三郎氏ノ盡力シタルハ恐クハ此件ナルヘシ、文化五年ハ承應四年ヨリ百五十年ノ後ナリ

十 黒山ノ植林

文化七年ニ樫野浦魚付林黒山ニ松苗ヲ栽植シタリ、古座浦、高川原村ノ二村ヨリ植付タリト見ユ、書付扣アリ左ノ如シ

二月十九日	一人足拾人	二色村エ松苗取寄遣
同 二十日	一同貳拾人	黒山松植付人足
同 二十二日	一同 壹人	二色村へ松苗取寄遣
同日 晝ヨリ	一同 四人	黒山松苗植付人足

〃三十三工
此賃飯米六斗六舛 但壹人貳舛ツ、
石七十目カへ 代銀四拾六匁貳分
一松苗七千三百也
千ニ付貳拾目カへ 代銀百四十六匁
合銀百九拾九匁貳分
右ハ此節網代黒山松植付苗代人足共入用銀如斯ニ御座候以上

文化七年午二月

高川原村庄屋

又 右 エ 門

肝煎

次 兵 衛

古座浦庄屋

平 三 郎

肝煎

勢 右 エ 門

又 八

安宅專右エ門殿

此宛名ノ安宅專右エ門トアルハ、古座組ノ大庄屋ニ非
スヤト考フ、此時ノ樫野浦ノ庄屋ハ甚吉氏ニテ肝煎ハ
平兵衛氏ナリ

十一 慶應元年ノ爭議

文化五年ヲ距ル六十年慶應元年、又網代事件ニ付古座
浦ト樫野浦トノ間ニ平和ヲ缺キ、大庄屋へ出訴セント
シタルカ、池ノ口村佐藤民治、高川原村富岡民平、同
村巽周平、高川原村庄屋兼池ノ口村庄屋吉郎治、高川
原村雜賀屋彌兵衛諸氏ノ仲裁ニテ和議整ヒ取替ハセ證

文ヲ作製シタリ即左ノ如シ

取替セ一件

此度網代一件ニ付於大庄屋御取扱ニ可相成之處御時
節柄之譯ヲ以池ノ口村佐藤民治殿高川原村富岡民平
殿同村巽周平殿同村庄屋兼池ノ口村庄屋吉郎治殿
高川原村雜賀屋彌兵衛殿兩五人内手依御挨拶双方和
熟イタシ附テハ左之通規定相立候處實正也
一網代漁業ノ義ハ承應年中ノ定ハ勿論仕來ノ通互ニ違
背致間敷事
一網代ノ義ハ古來持傳リ有之候堺目定書ノ通り相違無
之事
一右境目ノ内黒山ノ義ハ去ル文化五辰年風折松賣拂ノ
節出訴今以御代官所御取扱中トノ儀ニ付追テ御裁許
可爲次第事

右之通り候猶又規定相立候付テハ相互ニ神妙ニ致シ少
シニテモ我難勝手ノ致方無之筈若壹人ニテモ不束ノ義
ヲ申立候モノハ兩村論事ノ基ニ付互ニ嚴製度イタシ事
ニ寄リ上聞ニモ相違候様可仕筈ニ候依テ一札差出シ申
候以上

慶應元年丑十一月

樫野浦在中惣代

半 右 エ 門

同 浦

同 斷

同 浦

清 右 エ 門

同 浦

肝 煎

同 浦

新 右 エ 門

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

同 浦

甚 吉

古座浦庄屋兼帶
中湊村庄屋
彌兵衛殿

本文我々致挨拶候處相違無之候以上

高川原村 佐藤民治

同 富岡民平

同 巽周平

同 池ノ口村庄屋

同 同村庄屋兼帶

同 池ノ口村庄屋

同 吉郎次

同 高川原村

同 雜賀屋彌七

此時ノ争点不明ナリ何レカ一方舊慣ニ反キタルニ基
カ

十二 網代山林伐木ノ詔狀

慶應二年七月大島浦ノ漁民樫野浦ノ魚付林ヲ伐採シタ
ルニ依リ之ヲ詰責シ詔狀ヲ取リテ内濟ニス其狀ニ曰

乍恐御諭申上口上

此度私共御當浦御大切御持合網代山林ノ内伐取候處
御答ニ相成リ手船等取上ケラレ重々不調法ノ義奉恐
入候右等次第私共ノ村方へ御申遣シ候テハ私共ハ不
及申一類共必到難溢仕候ニ付何卒此度ノ義ハ御内濟
可被成下候様幾重ニモ奉願上候處御憐愍ノ思召ヲ以
テ御開濟被成下候段難有仕合ニ奉存候向後ハ急度相
慎可申候依之不調法一札差入申候以上

慶應二年寅七月

大島 傳 吉

同 所 卯 八

古座浦村方惣中

右ニ依レハ樫野浦魚付林ハ主トシテ古座浦ノ支配ナリ
シカ如シ

十三 流木取扱ノ件

有栖川宮家ノ御用材一日新宮川出水ノ爲流失シ、樫野

9

明治八年ニ至リ制度革新ノ機ニ乘シ、樫野浦ハ漁業關係ノ改善ヲ企テ、協商ヲ重ヌルモ論争決セス、遂ニ之ヲ和歌山縣令ニ訴フ、當時司法權未タ獨立セス、行政長官ナル縣令之ヲ判決ス其文ニ曰ク

- 第七大區七小區
- 牟婁郡樫野浦農
- 同農 岩谷 伊右エ門
- 同農 岩 傳 藏
- 同農 島崎 清左エ門
- 同古座浦商 岩崎 傳 兵衛
- 同士族 湯 川 清
- 同商 藤 田 清 兵衛
- 同商 高川原村商
- 同商 淺 利 次 平
- 同商 村 上 新 造

其方共儀樫野浦海辺網代ニ於テ敷網夜立網並ニイカ釣小前網等ノ漁事其他右網代ニ續ク山林野山共争論詞訟

浦ニ拾揚シタルヲ、古座浦ノ漁民等之ヲ古座浦ニ廻漕シテ保管シタルニ、樫野ノ住民怒リテ、之ヲ盜奪トナシ大庄屋ニ出訴シタリ、之ニ依リテ關係者牢舎ニ入り一郷驚愕シタルニ、中湊村ニ上野力藏氏アリ、沈着ニシテ膽力有リ、自ラ大庄屋ニ至リ其惡意ナラサルヲ説キ、花山院ノ御書付(御繪旨ト言フ誤ナルヘシ)ヲ持シ、樫野網代ニ於ケル權利ヲ辯ス、其勢當ル可カラサルカ如シ、大庄屋遂ニ屈シテ扣禁ノ漁民ヲ釋放シタリ、時ニ郷黨狂喜シテ其功ヲ讚シ、且神明ノ加護トナシテ奉納ノ幟ヲ作り、之ヲ船頭ニ建テ海風ニ翻シテ浦頭ヲ漕廻リタリ、今河内神社御祭典ノトキ御船ニ立ツル幟ハ正ニ其遺品ナリト云フ、此事口碑ニ傳ハルモ其年次ヲ明ニセス、恐クハ慶應ノ比ナラム、

十四 明治八年ノ裁決

幕末ノ風雲急轉シ徳川氏三百年ノ政權ハ之ヲ 朝廷ニ返上シテ、維新回天ノ宏業爰ニ成就シ、明治隆昌ノ御代ヲ迎ヘタルコトハ、千古未曾有ノ盛事ナリ、當時制度ヲ初メ百般ノ文物擧ゲテ範ヲ歐米ニ取り、我舊慣ノ如キ之ヲ拋棄シテ往々顧サルモノアリ、而シテ世ハ之ヲ怪マス、

ニ付遂吟味候上判決左之通

一 樫野浦ヨリハ我カ浦前限リ更ニ分界ヲ設ケ是迄ノ入會ヲ止メ自浦獨立ノ網代稼相立且山林野山ニ於テモ組合持ノ由緒無之ニ付自浦ノ處有ニ致シ度申立ルト雖仰モ浦方開基ノ遅キト速キト且地況トニ由テ原因ヲ推シ道理自然ニ備ルモノナレハ即今視察スル事ト情トヲ以テ一編ニ論定イタシ難シ依テ浦方開基ノ遅速ヲ推サハ人戸多數殊ニ漁事專業ノ地ニ付古座ヲ速シトセン樫野ニ於ケル海中ノ僻陬尙申立ニ於テモ往古ヨリ貧窮ニテ微々タル漁業相立現今スラ農事ヲ本業トシ其間隙ニ投シテ漁業ヲ營ムモノトサレハ海業ニ着手スルノ遅キ論ヲ候タズ故ニ分限ヲ設ケ取限リ漁業ノ儀ハ道理ニ於テ不相成事

一 古座浦ヨリハ幾百年仕來ノ通据置相成度申立ルト雖モ是迄ノ仕來リハ官ノ處分ニ決スルモノニ無之隣村時機ノ取扱上ヨリ熟和取鎮メ等ノ意ニ由ルモノニ付難及證議事

一 漁場ハ鼻迄目下ニ在テ樫野ノ境圍ニ籠孕スルカ如クナレトモ前ニ云フ樫野開起遅ク古座速ク且地況樫野ハ古座ノ前ニ遮横スルヲ以テ今後網代稼ハ敷網立網

ノ二業トモ隔日替リタル可キ事

一 イカ釣、小前網自餘ノ漁業トモ都テ入會稼ニ可致事

一 山林野山等ノ儀ハ組合持ノ由縁明証スルモノ無之本田新田檢地帳ニ依レハ明白ニ付總テ樫野浦榜示タルヘキ事

一 高川原村ハ往古浦立ノ營業致スモノ有之トモ現今村立ニ付仮令確証ニ可相成古書筆記等有之トモ都テ取消ニ付右漁場並山林共關係無之儀ト可相心得事

一 樫野浦辨天山ヨリ西フタ割迄ノ間網代魚寄ノ爲山嶺ヨリ北タ下不殘同ヨリ南凡五間通樹木爲生茂可申事

一 右堺内半高分古座浦ヨリ樫野浦ニ相當借地米本年ヨリ先々可相納事

一 是迄ノ樹木ハ此儘ニ立置ク可キ事

一 今後ハ右林中枯木賣拂代金又ハ苗木植付入費金共都テ二ヶ浦ヘ半割リ配賦可致事

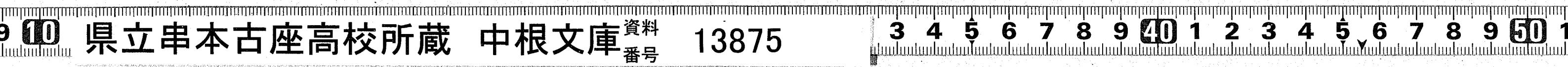
一 訴訟入費ハ双方ヨリ償却可致事

右代書人共

右ノ通り申渡シタ間其旨存セ

明治八年一月廿七日

和歌山縣令神山郡廉



此判決ハ維新後ニ於ケル基本的ノ決定ヲ爲ス、當時古座浦高川原村ニ於テハ、意外ノ感ニ呆然タルモノアリシコト、想像セラル、然レトモ時勢ノ變遷ハ權利觀念ニ對シ變化ヲ來スコトナシト云フ可カラス、深ク注意スヘキコトナルヘシ

- 一 高川原村ノ漁權等ノ喪失
- 二 古座浦樫野浦ヲ對等ノ漁權トス
- 三 魚付林地全然樫野浦ノ所有トス
- 四 魚付林立木ヲ共有トシ古座浦ヨリ年々地代ヲ仕拂フコト

十五 山地料ノ代償

明治八年一月廿七日和歌山縣令ノ判決ニ依リ、魚付林ノ山地米代ヲ仕拂フコト、ナリタルモ、其高ニ至リテハ古座樫野兩浦ノ協定ニ俟ツヘキ筈ナルニ、兩浦ノ意見一致ヲ缺キ纏ラス、此時第七大區七小區ノ區長吉田正一氏、之ヲ調停仲裁シ明治十年九月ヨリ向フ二十年ノ間、古座浦ハ其權利ニ屬スル敷網夜立網ノ内、夜立網ノ漁權ヲ停止シテ

樫野浦ノ專業ニ委ネ、以テ山地料ニ代ヘ、滿期ノ後更ニ山地料ノ協定ヲ爲スヘキコト、シ、無事解決シタリ、是レ明治十年頃ノ事ニ屬ス、而シテ此事古座浦ノ漁業上ヨリ見レハ頗ル退嬰ノ感ナクンハアラス、

十六 漁場爭訟

明治二十三年夏樫野浦ノ入會漁場ニ新規網場ヲ敷設スルハ有利ナルヲ察シ、古座浦漁民ハ之ヲ樫野浦ニ交渉シタルモ談調ハス是ニ於テ古座浦漁民ハ單獨實行スルコト、シ、七月十八日湯川半左エ門、岩崎傳兵衛二氏ノ漁船、字辨天山並ニ二タ割ノ海面ニ出漁シタルニ、即日大島村長ヨリ古座浦村長ニ抗議ノ申出アリ、古座浦ニ於テハ是レ入會ノ漁場ナレハ舊爲取替書並ニ和歌山縣令ノ判決文ニ依ルニ差支ナキモノトノ見解ニテ之ニ應セス

越ヘテ明治二十四年七月三日古座浦山本平藏船、日下治平船等ノ出漁アリタルニ、翌四日再ヒ大島村長ノ抗議アリ、然レモ其見ル所ヲ異ニスルモノアルヲ以テ古座浦ヨリ其旨ヲ答ヘタルニ、大島村長ハ遂ニ之ヲ法廷ニ争フコト、シ、和歌山地方裁判所田邊支部ニ出訴シタリ、是ニ於テ古座浦村長モ之ニ應酬シ辯難討論シテ曲

直ヲ争ヒタルモ同年十一月廿八日不幸ニシテ古座浦ニ不利ナル判決アリタリ、其正文ニ曰ク

- 被告ハ原被兩造入會漁場中『シラ』網代場ヲ除キ、其他辨天山、二タ割等ノ沿岸ニ敷網ヲ使用スルコトヲ得ス
- ト、是レ古座浦漁民ノ服スル能ハサル所ナルヲ以テ、進ミテ大阪控訴院ニ扣訴シタルモ復タ不幸ニシテ理由ナシトシ棄却ノ運命ヲ見ルニ至リタリ、

十七 山地料ノ訴訟

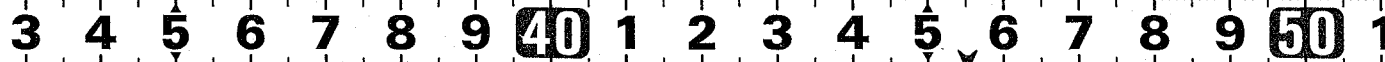
明治十年第七大區七小區々長吉田正一氏ノ仲裁ニ依リ一時解決シタル山地料ノ問題ハ明治三十年九月ヲ以テ滿期トナリ、更ニ山地料ノ協定ヲ要スルコト、ナリタリ、而シテ其額樫野ノ要求スル所ハ古座ノ欲スル所ト著シキ間隔アリ、折衝ヲ重ネタルモ議纏ラス、明治三十一年遂ニ樫野側ヨリ和歌山地方裁判所田邊支部ニ出訴シタリ、其要求スル所左ノ如ニテ

- 年額金四百九十二圓六十二錢三厘 樫野 浦
- 全 金八十一圓二十九錢 岩谷 又左エ門
- 全 金四十四圓五十二錢八厘 島崎 清左エ門
- 全 金四十三圓四十七錢 齊藤 敬治

- 全 金二十二圓九十九錢八厘 叩喜平 治
- 全 金五圓七十九錢四厘 高野長三郎
- 全 金十六圓 川上傳松
- 計金七百六圓七十錢七厘ノ多キニ達シ、到底之ニ應シ難キヲ以テ論争抗辯シタルニ、審理ノ末同年十月十九日出訴ノ七名ニ對シ各其額ヲ減少シ明治三十年十月ヨリ年額計三百一圓四十五錢八厘ヲ古座浦ヨリ仕拂フ可キ旨ノ判決アリ、

十八 立木評價ノ私曲

前項事件ノ際ニ於ケル立木評價人ニ收賄ノ私曲アリシヲ證見シ、其者等獄ニ繋カル、是ニ於テ古座ハ起テ再ヒ之ヲ争ハントシタルモ、時ニ高池町佐藤長右エ門申本町神田清右エ門等ノ諸氏古座浦、樫野浦兩者間ニ立チテ仲裁ノ勞ヲ取り、第一山地料ニ代ヘ依然夜立網ヲ樫野浦ノ獨專トシ、第二從來ノ繫争三ヶ年間ノ山地料補償トシテ年額金百圓ノ計算ヲ以テ金三百圓ヲ古座ヨリ樫野ニ仕拂フコトノ條件ニ協約シ、之ヲ公正ノ証書ニ作リテ落着セリ、於此古座樫野間ニ蟠マレル積年ノ紛争ヲ一掃シ去リテ、平和輯睦ノ交ヲ復スルヲ得タリ、古座浦ニテハ樫野浦獨占夜立網ノ影響ヲ虞リ、暫ク



鳥賊釣ヲ其近辺ニ操業セザリシハ厚意上ヨリ出タル美事ナリト云フヘシ、實ニ明治卅四年ナリ、

十九 漁場ノ交渉

明治八年和歌山縣令ノ判決ニ依リ、高川原村ノ漁權ヲ喪失シテ以來、樫野ノ漁戶多少増加ノ傾向アリ、然レ元之ヲ古座浦ノ多キニ比スレハ素ヨリ同日ノ論ニ非ス、古座浦ハ依然トシテ漁戶ノ多キニ比シ漁利ノ少キニ艱ミ、海面ニ遺利ヲ索メ、漁場開拓ノ必要切ナルモノアリ、樫野浦字「アジカミ」ノ地先ハ、八角網ノ敷設ニ有望ナルヲ檢討シ、之ヲ樫野浦ニ謀リタルニ、大ニ同意シタルモノアリタルモ機運熟セス、反對ノモノアリテ其議遂ニ止ム、

二十 漁業法ノ實施

明治卅六年新ニ漁業法ヲ實施セラレ、漁業組合ヲ創設ス、漁業法ノ實施ハ漁業組合ニ對シ、古來獲得シタル地先海面漁權ヲ尊重シ、全般ノ漁權ニ對シテ免許ヲ與ヘラル、モノト信シタルニ、政府ハ漁業ノ種類ヲ專用漁業、定置漁業、區劃漁業、特別漁業、ノ四種ニ區分シ、煩雜ナル手續ヲ定メテ地方官廳又ハ主務省ニ出願セシムルコト、ナリ、

ノ負担重カラスト謂フヘカラス、故ニ其納税ヲ完了セシムルハ、爲メニ良好ナル方法ヲ按セサル可カラサルモノアリ、他ノ漁村ニハ漁獲物ノ取扱ヲ請願ニ付シ、請負者ヲシテ請負金ヲ納メシメ、以テ諸税等ヲ辨シ、請負者ニハ自ラ一定ノ引落歩金ヲ取得セシムルモノアリ、

古座漁業組合ハ漁業者ト魚商人ノ間ニ立チ、自ラ魚類ノ取扱ヲ爲シ、資金ハ當時株式會社古座銀行ノ當座契約ニ依リ、魚類販賣ノ歩金ハ三步ノ低率トナシ、商人ノ代金仕拂ヲ月三回ニ猶豫シ、漁業者ヨリ代金即時仕拂ヲ望ムトキハ歩金ノ外ニ千分ノ七ニ當ル利子ヲ負担セシメテ代金ノ受授ヲ完了セシムルコト、シタリ、而シテ此効空シカラス、魚商ニ代金仕拂ヲ怠ル者ナク組合ハ漁業税並其附加税ヲ完納シ、自ラ經費ヲ凌キ、其初メハ銀行ニ對シ當座利子三四百圓ノ仕拂ヲ要シタルモノ、後ニハ却テ其利子ノ仕拂ヲ受クルモノ七八百圓ニ上ルヲ得タリ、

廿二 漁業權ノ回收

古來古座浦ノ漁業權ノ主体ハ、古座浦ナリ、明治二十三年町村制ノ實施セラレ、ヤ古座村大字古座トナリ、

舊來漁村ニ於テ獨占シタル漁場ト雖トモ、定置漁業、區劃漁業、特別漁業ノ名稱ノ下ニ、一定狹小ナル區域ヲ限定シテ免許ヲ與ヘラレ、其ノ區域ハ從來慣行漁場ノ部分ニ留メテ全体ニ及ホサス、又古來專用ニ屬シタル漁業モ、他ヨリ無免許ニテ入漁シ得ルコト、ナリテ、漁業ハ頗ル解放的トナリ、地方專用漁業ノ權利ハ著シク微弱ノモノトナリタル等法規ハ甚期待ニ反スルコト、ナリタリ、明治四十三年四月改正漁業法ヲ發布セラレ、其施行ノ期ハ勅令ヲ以テ明治四十四年四月一日ト定メラル、

廿一 漁業組合ト共同販賣所

漁業法ノ實施ニ伴ヒ從來習慣ニ依リタル事項モ、復雜ナル制度ノ拘束ヲ受クルコト、ナリ、漁業權ノ享有ト其保存ノ如キハ周到緻密ナル注意ヲ必要トシ、若シ万一茲ニ缺クル所アラハ百年ノ悔ヲ貽スルコトヲ免カレス、故ニ明治卅六年制度ノ下ニ漁業組合ヲ設是等ノ庶務ヲ掌理スルコト、ナス、

組合ハ庶務ノ爲メニ經費ヲ要シ、其收入ノ確實ヲ期セサル可カラス、又本縣ノ捕魚採藻税ハ漁村割ニシテ甚輕カラス、之ニ町村ノ附加税ヲ加算スルトキハ、漁民更ニ區ヲ設クルヤ古座區ニ移ル、明治三十六年漁業法ノ實施セラレ、ヤ之ヲ漁業關係者ヨリ成ル所ノ漁業組合ニ屬セシムルヲ、法律上穩當ナリト思惟セラレタルモ、古來古座浦ノ漁業ニ關シ爭議アリタルトキハ、古ハ、古座浦、後ハ古座區、巨費ヲ擲チ、存亡ヲ賭シ、熱烈ナル盡力ヲ爲シテ權利保護ニ力メタル歴史アルヲ以テ、是等ノ事實ヲ訴ヘ、古座區ニ對シ漁業權ノ免許ヲ取得スルヲ得タリ、然レモ漁業權ノ主体ヲ區トナストキハ、官廳ニ對スル關係ニ多大ノ不便アリテ、權利ノ保全ニ困難ナル場合アルヲ以テ、組合ト區トノ間ニ協議ヲ重ネ東牟婁郡長谷口秀峯氏双方ノ代表者ヲ郡衙ニ招致シ懇示スル所アリ、双方熟慮ノ末、古座區ノ有スル漁業權ハ、一切之ヲ古座漁業組合ニ讓リ、組合ヨリ古座區ニ對シ、協議組合(區民ノ組合團體ナリ)ノ經費トシテ、年額金五百圓ヲ永ク補助スルコト、ナシタリ、是レ大正五年十二月ノコトニシテ契約書ノ作製アリ、

大正七年四月網代網ニ關スル財産ニシテ古座區ニ殘有スル網、船、納屋等ノ代金壹千圓、毎年金百圓ツ、十ヶ年仕拂ノ契約ヲ以テ、古座漁業組合ニ讓リ、大正八

年古座町内三大字ノ財産統一ノ際、大字古座即古座區ノ有スル鎌ヶ谷ノ宅地五百坪、漁業組合事務所敷地二十九坪（外一坪半ハ組合所有）ヲ漁業組合ニ對シ無償讓與シ、次テ大正十三年ニ至リ、古座協議組合所有ニカ、ル元古座警察署ノ敷地九十二坪ヲ代金五千圓内二千圓ハ即時拂三千圓ハ大正十四年ヨリ年六圓ツ、五ヶ年拂ノ約束ヲ以テ漁業組合ニ讓ル、右等漁權ノ回收、宅地ノ買入及移讓等ハ、古座漁業組合ノ機能ヲ完フシ、發展ヲ計ル上ニ於テハ極メテ須要ナル事項ニ屬ス、此ニ初メテ漁業組合ハ其成立要素ヲ全フシタルコト、ナル、

- 廿三 組合享有ノ漁業權
- 漁業法ニ依リ、古座漁組合ノ享有セシ漁業權ノ概目左ノ如シ、詳細ハ組合史ニ載ス
- 一 地先水面専用漁業權二
- 一 慣行地先水面専用漁業權四
- 一 入漁權四
- 一 特別漁業權二
- 一 一定置漁業權五
- 一 區劃漁業

廿四 漁撈ト製造

古座浦ノ漁業ニ鯉船アリ、鯖船アリ、發動機船ヲ用ユ、經營者十戸ヲ算ス、小釣ト稱シ柔魚釣、鯖釣等アリ、何レモ小舟ヲ操縦シテ漁撈ニ従事ス、漁戸百戸許ナリ、是レ漁戸各自ノ營ム所ニ係リ、其豊歉ハ多數漁戸ノ休戚ニ關ス、網罟使用ノ漁業ニハ、秋刀網アリ、秋月魚ヲ漁ルナリ、鰯漁ニハ四艘張アリ焚入網アリ何レモ大型發動機船ヲ用ユ、小規模ノモノニナゴ網、ヤタラ網アリ、共ニ小舟ヲ用ユ、皆鰯船ニ用ユル餌料ヲ捕ルヲ主トス、コマセ網アリ鰯ノ飼付用ノコマセ魚ヲ捕リ、手續網トゴチ網ハ海底ニ栖ム魚類ヲ捕ヘ、棒受網ハ鱈杯ヲ捕フ、是等モ皆小舟ノ漁業ニ屬ス、鰻ヲ漁ルニ海老網アリ、八角網ト落シ網ハ敷網ニシテ古座檜野共同組合ノ經營ニ係リ熊野海漁業中ニ於テ優良ナルモノト稱セラル、以上ノ漁業ヲ詳叙スレハ左ノ如シ、

鰻釣

潮岬燈台ノ下、下リ潮ヲ候フ、上リ潮ノ時ハ沖ニ出

元船ノ占ムル位置ハ、其釣終リテ退去スル迄ハ、二番船進ムコトヲ得ス、其時迄ハ二番船船ニ二人艦ニ二人迄釣ヲ垂ル、コトヲ得、三番船ハ順ヲ待ツノミ、

漁期

舊三月節句ヨリ五月節句迄

漁船

從前ハ七丁櫓以上ノ漁船ニ非サレハ、潮岬ニ入漁スルコトヲ得ス、

漁法

撒キ餌ヲナシ鯉ヲ寄セテ釣ル餌付ト云フ。餌釣ナリ。牛角ニテ製シ餌ヲ用ヒサル漁具ヲ併用ス角釣ト云

鯉釣ハ最モ技能ヲ要ス、漁者舷側ニ併立シ太キ三尋許ノ竿ヲ右手ニ持チ、竿ノ元ヲ右腰ニ支ヘ、釣上ルヤ竿ヲ立ツルト共ニ左手ヲ以テ鯉ヲ右肋ニ抱ヘ、釣針ヲ外シテ背面ニ投スルハ實ニ一瞬ノ間ナリ。角釣ハ漁

業主

具ニ四尺許リノ太キ燃絲ヲ付シ、之ヲ三尋許ノ竿頭ニ結ヒ、鯉ヲ釣上ケ、竿ヲ立ツルト共ニ、鯉ハ鉤ヲ離レテ船中ニ落ツ、前者未タ落チサルニ後者竿頭ニ跳ル、其速ナルコト目ヲ驚カス、

船主ナリ、現今七戸、鰻釣專業ノ者、西田、峰本、西川、岩見ノ四氏、鯖船兼業ノ者、坂井、津井、中瀬ノ三氏、從前舊正月ニ船主側、古座ノ上ミ地、谷新平氏ノ宅ニ會シ當皆（トウカイト云 姑此字ヲ用ユ）鰻ニ關シ各種ノ申合ヲ決ス、此會ヲ滿所（政所カ）會ト云フ、其爲ニ谷ノ家ヲ滿所ト稱ス、今ハ各船主ノ宅ニ輪番ニ集會ス

業主ト漁夫トノ間雇傭ノ關係ニ日傭船、當皆船ノ二種アリ、日傭船ハ漁事ノ豊歉ニ抱ハラス、一定ノ給料ヲ與フルヲ云ヒ、當皆船ハ漁獲ノ高ニ應シ利益ヲ分配スルヲ云フ、其法漁獲高ノ内經費（燃料、餌料、食料ノ類）ヲ扣除シ其殘高ヲ大抵船代二十人（小キ船ナレハ十五六人）船長一人半、艦取

(副船長)一人二分、機関長一人半、油差一人二分、餘ハ一人ツ、ノ割合、

漁夫 船ノ大小ニ依リ員數ヲ異ニス、大抵二十人以上三十人位ニ至ル。漁夫ハ専ラ土地ノ人ナリ、若シ豊漁等ニテ不足スルトキハ、西ハ阿波方面ヨリ、東ハ崎島邊迄、行キテ之ヲ索ム、舊正月前ニ水主(漁夫)ノ集會アリ此時ニ雇傭ノ契約ヲ成立ス、正月二日ニ乗初ヲナシ祝酒ヲ催ス、以前ハ大抵舊盆頃ニ雇傭ノ交渉ヲ始メシ由ナリ、雇傭ノ契約ハ九月十五日ニ至レハ自然解約トナル習慣ナリ、

漁夫ノ賃ハ以前往々前借ヲナシタルモ、近來甚少シ、蓋シ借金ニ拘束セラルルヲ厭フ爲ナリ

日傭船ハ、漁業ノ成績良好ナラサル憾アル外ニ、漁夫爭奪ノ競争アリ此法近代稀ナリ

鮪船

近海ヨリ遠洋ニ及フ
漁期 七月頃ヨリ翌年四月頃ニ至ル、中ニハ周年

出漁スルアリ、
漁船 大型發動機ヲ用ユ、艦船ヲ其漁期外ニ用ユルモノアリ、其製相似タリ

五六間許ノ小發動機船ヲ用ユルモノアリ、是ハ近海ノミニ出漁ス

漁法 延繩ヲ用ユ、大型船ハ大抵延繩百鉢ヲ用ヒ、小型船ハ四五十鉢ニ止マル、一鉢ハ一籠ヲ云ヒ、一籠ハ五十尋許ノモノ三四本ニテ約二百尋ナリ、

小發動機船ヲ用ユルモノハ朝繩ト云、専ラ早朝繩ヲ延ヘルヲ以テナリ、

業主 船主ハ現今六戸ニテ、專業ハ岩崎、淺利、西津ノ三氏ニテ艦船ト兼スルモノ坂井、津井、中瀬三氏ナリ、

漁夫 近海漁業ナレハ八九人、遠洋出漁ハ十五六人ニ及フ、一航海長キハ十五六日ニ至レルモノアリ、朝繩ハ三人許ノ乗組ニ止マル雇傭關係ノ艦船ニ等シ、漁夫ハ艦船ト大抵人ヲ異ニス、即乗代ルナリ、

柔魚釣

業主 漁戸自營

秋刀網釣

漁期 近海 十一月ヨリ一月マテ

漁船 大型發動機船ヲ用ユ、外ニ小舟三艘曳連レ出漁ス網ヲ張ルナリ、流網ナレハ小舟ハ一艘ニテ足ル、

漁法 大網アリ、流シ網アリ(又差シ網ト云)近年専ラ流シ網ヲ用ユ、大網ハ長百二十尋、高二十五尋ヨリ三十尋マテアリ、魚群ヲ包圍シテ捕獲ス

業主 艦漁ニ同シ
漁夫 小舟ニ各六人ヨリ八人許乗ル、親船ト通シテ三十人ニ餘ル、流網ハ二十人許

業主トノ關係ハ艦船ニ等シ

鯛船

漁期 地先ヨリ近海ニ及フ、四艘張ハ互ニ漁場ヲ抽籤ス、

漁場 地先海面ヨリ近村ノ沖

漁期 十月ヨリ二月マテ

漁船 小機船(一人ニテ釣及操縦ヲナス)小發動機船 二人乗

漁法 夜釣ナリ、火光ヲ用ヒテ魚ヲ寄せ、スバルニ餌ヲ結付ケタル漁具ヲ用ユ、豊漁ノ片ハ一人幾千ヲ漁ス、

業主 漁戸ノ自營ナリ、今ハ百艘許アリ、半ハ發動機ヲ据ユ、

鯖釣

漁場 地先ヨリ近海ニ及フ

漁期 六月ヨリ十二月ナレトモ、大抵年中出漁ス

漁船 イカ釣ノ船ナリ

漁法 餌釣

業主 漁戸ノ自營

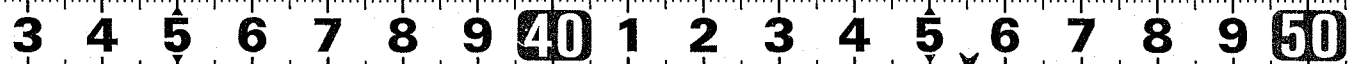
カマス釣

漁場 地先ヨリ近海ニ及フ

漁期 七月ヨリ十月マテ

漁船 イカ釣船

漁法 餌釣



漁期 四艘張ハ八月ヨリ十一月頃マテ、焚入網ハ六月ヨリ十二月頃マテ、カイ取網ハ九月十月

漁網 四艘張、焚入網、飼取網
親船ハ艪船ヲ用フ、飼取網ハ親船ヲ用キサルコトアリ、四艘張ニハ網船四艘ヲ付ス、中舟二、小舟二、

焚入網モ四艘ヲ付ス、中舟二艘ハ網置、小舟二艘ハ、ランブヲ點シ魚ヲ寄ス
飼取網ハ中舟二艘網置作業ヲナシ小舟一艘ハ餌撒キヲナス、餌ハ「コマセ」ナリ

漁法 網ニ依リ異ナリ、漁船ノ條ニ畧記ス
業主 艪船ニ等シ

漁夫 二十人ヨリ三十人許ニテ、業主トノ關係艪船ニ同シ、

ナゴ網
ヤダラ網

漁場 共ニ地先

漁期 三四月

漁船 小舟

漁法 艪ノ餌ヲ漁ル、焚入網ナトニテ捕レサル時ニ漁ス、小規模ノ艪漁者ハ之ヲ常用ニス、

磯打網 地先ヨリ近浦ノ海面ナリ、出漁者ハ廣ク區域ハ劃リテ互ニ抽籤ス、

漁期 大抵年中ナリ、

漁船 親船ハ艪船ヲ充ツ、中小ノ舟六艘ヲ付ス、六スベトトモ云、網六張ヲ用ユ、

漁法 網ヲ張り、投石シテ魚ヲ追込ム、
魚類 鱈、ムツ、魷、イブスミ杯ノ磯魚ヲ漁ル、
業主 艪船ニ同シ、

漁夫 二十人迄
コマセ網

漁場 地先

漁期 三四月

漁船 小艇三四人乗

魚類 鱈ノ餌コマセヲ漁ル

手繰網
ゴチ網

漁場 共ニ地先

漁期 十二月ヨリ三月マテ

漁船 小釣ノ櫓船二人乗込

漁法 海底ノ魚類ヲ捕ル

魚類 鱈、魴、ハゲノ類

業主 漁戸ノ自營

棒受網

漁場 地先

漁期 七月ヨリ十二月

漁船 専小船ヲ用ユレバ、中型船モ出漁ス、

漁法 撒餌ト火光利用ノ二種アリ、網ヲ張り魚ヲ抄フ、

魚類 鱈、鰯

業主 漁戸ノ自營

磯網

漁場 地先ノ磯邊

漁期 九月ヨリ五月マテ

漁法 海老ノ栖息スル處ニ夜、網ヲ置キ、翌朝之ヲ揚ケテ掛リタル海老ヲ捕フ、網ハ海老網トモ云、

業主 漁戸ノ自營

八角網

漁場 大島村檜野ノ辨天島ヨリ約五十間内

漁期 夏期ニ敷設ス、六月ヨリ十月ニ至ル冬期ノ落網ト交ルナリ、

漁法 一定ノ場處ニ網ヲ敷設シ、魚具ヲ附シ魚群ノ網ニ入りタルヲ候ヒ、手繰上ク、

魚類 目近、鱈、鮪、鰯、鱈等

業主 舊ハ辨天崎漁業株式會社、次ニ辨天前漁業株式會社ニテ、今ハ辨天前漁業共同組合ナリ何レモ古座檜野ノ共營ニ屬ス、

従業夫 二十二三人

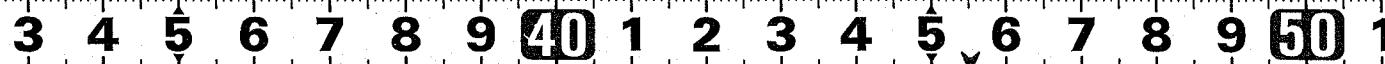
落シ網 初三角網ヲ用ヒ、辨天崎漁業株式會社之ヲ經營シ、之ヲ大敷網ニ改メ、更ニ大謀網ニ改ム、營業滿網シテ、辨天前漁業株式會社之ヲ亞キ、滿網ヲ用ユ、

漁場 八角網ノ網代ヨリ百五十間許沖

漁期 十一月ヨリ五月ニ至ル

漁法 八角網ノ條ニ記シタル通

魚類 鰯、鱈、鮪、柔魚、鰻、鮪子、等多種ニ亘



業主 辨天前漁業共同組合ナリ、(民法上ノ組合組織ナリ)

漁夫 從業者五十四五人ナリ

三角網ノ頃ハ七八十人、大敷網ノ頃ハ百人許大謀網ノ頃ハ百人許ニ達ス、

古ハ熊野節(鰹魚節ナリ)ノ名博ク都市ニ聞ヘ、優良ノ品ヲ以テ賞讃セラル、土佐ニ優等ノ品ヲ出スニ及ヒ之ニ一籌ヲ輸ス、近年大ニ製造ニ改良ヲ加ヘ、漸ク其聲價ヲ回復ス、

現今水産ノ製造即加工品ニ、節類ニ鰹節アリ、鯖節アリ、又鰯節アリ、素乾品ニ「スルメ」及「フカヒレ」アリ、鰹節ノ品ニ鰯節、鯖節、其内多額ノ産出アルハ鰹節、スルメ、鰯節、鯖節ノ類トス、而シテ是等ノ製造業者ヲ數フルニ正ニ二十七戸ニ及フ、昭和八年新ニ魚粉ノ製造ヲ初メタルモノアリ、用途多ク前途有望ナリト云、

廿五、漁業税

紀伊風土記ニ太寶令ノ調ヲ輸ス制ヲ解シ、正丁一人輸ス所絹繩ナレハ八尺五寸、絲ナレハ八兩、綿ナレハ一斤、布ナレハ二丈六尺、若此物ヲ出シカタキ所ハ、雜物ヲ以テ調トスト云ヒ次ニ

令ニ載スル所ノ雜物三十餘ノ中、本國輸ス所ノ雜物何種トイフ事詳ニシ難シ、大抵主計式ニ載スル所ヲ以テ推考フルニ左ニ列スル類ナルヘシ、又本文ニ依テ正丁一人輸ス所ノ數ヲ取リテ當色ノ下ニ注ス

鹽三斗 鰹十八斤 堅魚三十五斤 雜魚ノ楚割五十斤 海藻百三十斤 滑海藻二百六十斤 雜ノ鰯五斗 煮鹽ノ年魚四斗

トアリ、又同書ニ孝德紀大化二年詔曰凡仕丁者改舊每三十戸一人而五十戸一人以宛諸司云々トアリ、海産物ヲ調トスルナリ

降ツテ徳川藩政ノ頃、小物成ニ諸魚之口アリ、東牟婁郡誌ニ

諸漁之口、漁業者ニ賦課スル運上ニシテ、之ヲ水夫米ト稱シ、一浦村毎ニ一箇年米三斗宛ヲ上納セシムルモノナリ

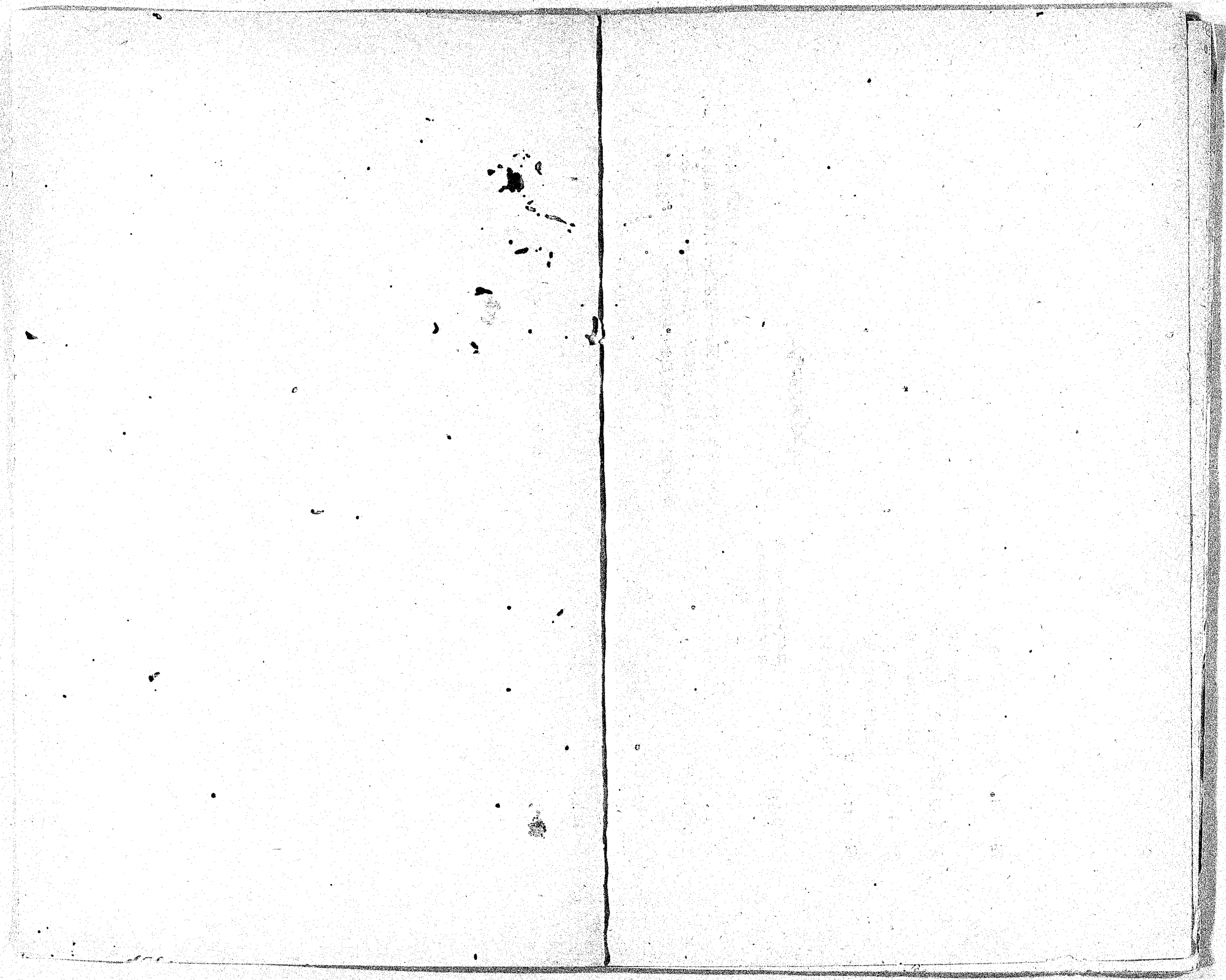
ニ附加税ヲ課ス、今ハ縣税ハ海面漁業税、河川漁業税ニ分ツ、昭和七年度ニ於ケル古座町ニ課セラレタル縣稅海面漁業税ハ千四百四十九圓ニシテ之ニ附加シタル町稅モ同額ナリ、

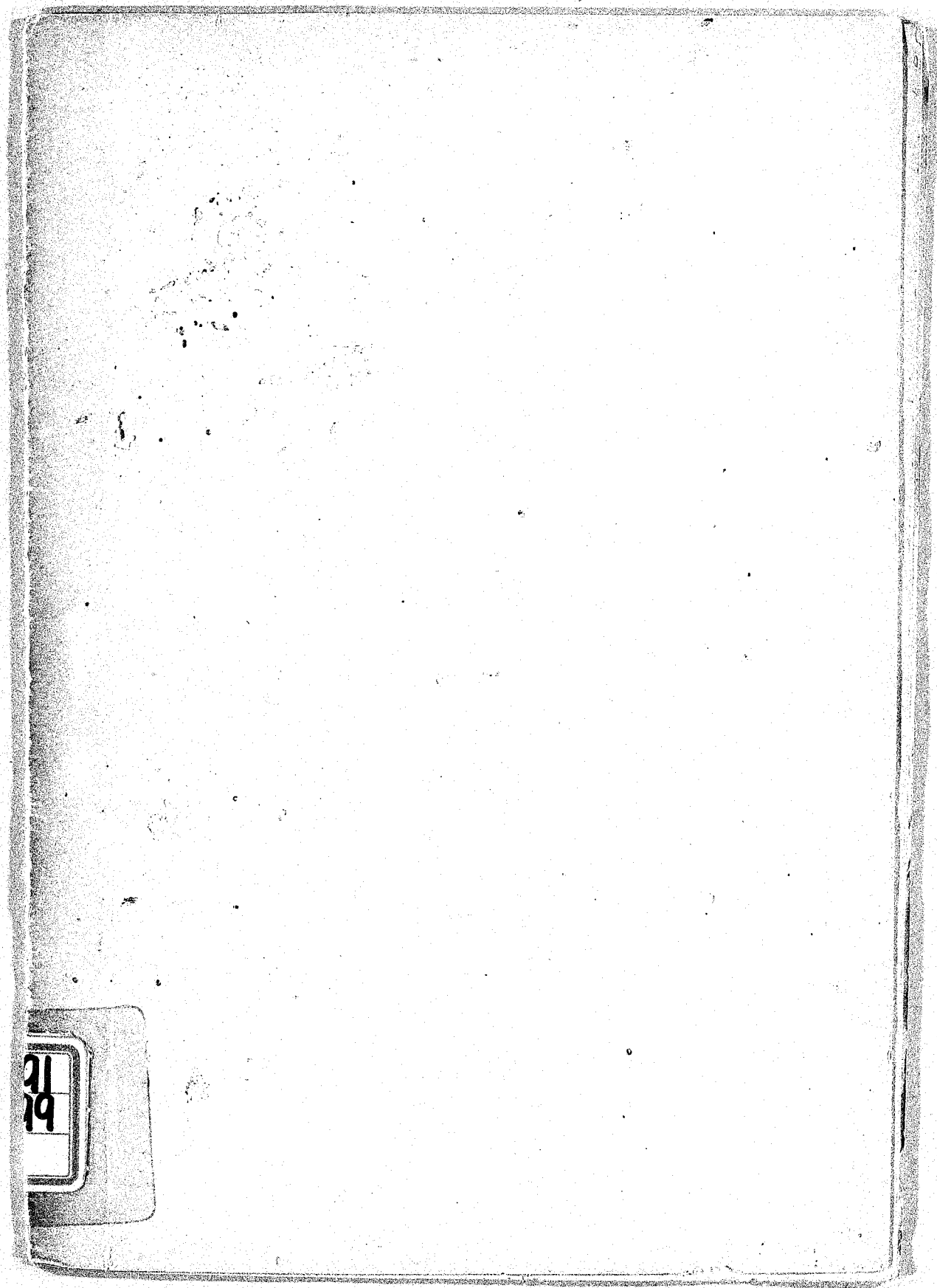


昭和九年一月十三日印刷
昭和九年一月十八日發行

(非賣品)

和歌山縣東牟婁郡古座町 編輯人 中 根 七 郎
和歌山縣東牟婁郡西向村 印刷人 山 本 巳 之 助
和歌山縣東牟婁郡西向村 印刷所 饒 郁 文 館 印刷 所
和歌山縣東牟婁郡古座町 古座 漁業 組合
發行人 小 島 茂 德





21
19